

みどりの杜俳句会

梅雨寒の山路をたどり友見舞ふ

佐山けさ子

軒下に積みあるたき木梅雨湿り

高橋 きみ

梅雨寒や姉のチョツキを重ね着す

西 ツル

裏庭のカサブランカや雨の中

山崎 才子

梅雨明けず早朝今日の予定組む

吉田 啓子

目覚めたる窓辺ハイビンスカスの黄よ

鈴木 啓子

雨続き百合倒れ伏す留守の庭

田村 好子

やぶ萱草かんぞうのオレンジ続く山路かな

飯野 トヨ

雨の中葉裏はりつくかたつむり

河西カナメ

植田より芝生へ跳べり青蛙

馬場 芳

長梅雨の鳥の声なき山路かな

高橋 ツ子

凌霄のらぎのかたまり開き朱の濃かり

梅沢きくえ

前の土手青のあぢさる揃ひけり

飯野はつ志

妻の古稀祝ふ土用の宴かな

荒川句似啓

畦道に沿ひ草刈りの済ませあり

関口 侑子

天守閣格子窓より風涼し

野口利江子

山空の真つ赤七月夕べかな

関口 真吾

花供へ婚報告す墓参り

金子 圭輔

盆道の更けて猪現はるる

岩崎 真人

ひまわりと子の背くらべ雨晴るる

大竹 祐也

直売所地産西瓜の試食あり

千野さき子

青とかげ石垣くねりつつ登る

岡部富美子

沼の上塩辛蜻蛉飛び交へり

土屋 厚子

神木の杉に空蟬爪立てり

初雁 功子

三日目の夜干しの梅や良き香り

山田 美子

白石短歌会

笛の音に似ているけれど鋭くて

我を威嚇し去りゆく獣

ひろしまの平和宣言に今し思ふ

戦無き世を声に出さむと

梅雨けむる土手に色濃く甘草の

花彩りて時を告げたり

石段を下りつ、傘をさしくるる

曾孫小学年生の優しさ胸キュンの雨

渡邊阿里子

坂本 美江

白石 礼子



人権シリーズ

「人権とは」

人権とは、人が生まれつき持ち、国家権力にも侵されない基本的諸権利であります。国際人権法によっても国際的に保障されています。それではなぜ偏見や差別が生じるのでしょうか。

人は生まれた時は、偏見や差別という考えを持つわけがありません。人は十人十色であります。決して一人では生きていけず、お互いを助け合うために集団を成しています。保育園や幼稚園、小学校、中学校となるにつれて、集団の数は増していきます。私が以前指導者をやっていたボーイスカウトは、子どもたちが希望して入ってくるので、指導という面では学校の教師よりもやりやすい部分もありました。しかし学校は義務教育であり、勉強嫌いな子や学校自体が嫌いな子などまさに十人十色な子どもたちがいまいます。その中から噂話やちよつとした悪口が生まれ、差別や偏見へとつながります。世界を見ても、様々な主義主張の国々があり、それぞれの利害関係の中で紛争を起したり、情報統制など人権を無視するような行為やヘイトスピーチなど偏見で他国を見るといったことも起こっています。これは国際人権法などあっても、各国が加入した条約に沿って人権擁護の仕組みが出来ていないからです。

私も正直なところ、偏見や差別の目で見たことが過去あったかと思うところもあります。それではどこから人権侵害なのでしょう。近頃よく目にする虐待問題も、人権とは、差別とは、を認識していれば防ぐことができるのだと思います。親とは、子どもとは、家族とは何かを年少のうちから教育することが必要だと思えます。人間が生きていると偏見や差別が生まることがあります。しかし、正しい知識・情報により無くすことは可能であると信じています。

老人クラブ連合会長 山崎 初一